

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者及び家族が安心できるよう、「私たちの理念」を掲げ、各ユニット・スタッフルームに掲示している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝礼時に、代表及びスタッフにて運営理念を読み上げ、全職員が理念を実現できるように、日々努力している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホーム内に掲示したり、「里心だより」に掲載し、家族や地域の方々に理解して頂けるよう努めている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方々より、採れたての野菜や果物・花等を持ってきて頂いたりして、立ち寄ってもらっている。また、近所の牛乳配達屋さんや豆腐配達屋さんとも、馴染みの付き合いが出来ている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町の「福祉フェスティバル」や「花てぼ歌祭り」、地元の敬老会に参加したり、近隣の特養より定期的に歌謡ショーの招待を受け参加したりと、交流に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議にて問いかけを行い、話し合いを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ全員が外部評価の重要性を理解し、自己評価を各自で考えた後に、ユニットごとに話し合い、意識を高めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見を頂いたら、随時スタッフで話し合いを行い、検討するように努めている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	社協や役場福祉課との情報交換を行っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会があれば、参加するように心がけているが、知識不足である。		研修会があれば、積極的に参加し知識を得て、スタッフ内でも勉強会等をし学んでいけるようにしたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が無いよう、スタッフ同志が注意を払ってケアに努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>事前にホームを見学して頂いたり、自宅へ出向きアセスメントをとり、不安や疑問点を尋ねたり、納得され安心して利用して頂けるような説明に努めている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者がスタッフや家族に不安や苦情を言える環境が出来ており、その都度、スタッフ間にて話し合いを行っている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>2ヵ月に1回発行している「里心だより」にて近況報告を行ったり、特変があれば、その都度電話連絡等を行っている。また、面会時に介護日誌に眼を通して頂き、状態報告・説明を行っている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>アンケートを採ったり、家族会や面会時に意見を頂いたりし、その都度スタッフで話し合いを行って改善するよう努めている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に1回行っているミーティングにて意見を出してもらったり、何か問題があれば、その都度尋ねて、検討・改善を行っている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>前もって分かっている分には早めに調整を行っており、急な場合でも、スタッフの勤務交代等でスムーズな調整を行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>スタッフが離職する場合は、離職する理由を把握した上で、なるべく離職者が出ないようにして、入居者の方々が戸惑わないように努めている。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集・採用にあたっては、性別・年齢を理由にした排除は行っていない。スタッフが、生き活きと働けるよう配慮している。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>お互いが尊重し合う社会の実現を目指し、人と人との関係のあり方や課題の解決に取り組んでいる。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部での研修に参加するよう促したり、月に1回の全体ミーティングにて、改善に向けた話し合いを行っている。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修会には積極的に参加するよう心がけており、情報交換等も行いながら、質の向上に努めている。</p>		<p>町内に3つのグループホームがあるので、3ヶ所が集まっての交流も行って行きたい。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>定期的に食事会を行ったりして、仕事を離れてのコミュニケーションの場を作っている。</p>		<p>今後は、スタッフが楽しめるような慰安旅行やボーリング大会等をし、ストレス発散してもらえるようなイベントも取り入れたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	1人1人が希望にあふれ、能力を発揮し、生き生きと働ける職場を実現する為に、個々の力量を把握した上で、全体のバランスを見ていきアドバイス等を出していくよう努めている。		
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に見学して頂いたり、ご本人及びご家族とお会いしてアセスメントをとらせて頂く際に尋ねていくよう努めている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族にとって大変な事、困っている事、不安な事、今後の要望等を遠慮なく話していただけるよう努めている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたとき、本人が一番困っている事、気がかりなことを根拠とし、ケアプランを作成してケアに努めている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に訪問された際、スタッフや入居者からも声をかけ、ホームの雰囲気を少しでも掴んで頂けるよう工夫している。事前のアセスメントをとり、ご本人が馴染めるような話題の提供を行えるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活を共にし、食事の支度、洗濯物干し、片付け等を協力して行うことで話題が広がり、スタッフが知らない事を教えて頂いたりして、支えあえる関係を築いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会の時や面会時に、本人の以前の趣味や好み、生活状況を聞いたり、ホームでの生活状況を伝えながら、家族との協力を努めている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前の家族関係を理解し、その家族に合わせたかかわり方、連絡のとり方を検討した上で、支援している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話で話したり、会いに行ったり、買い物に出かける等の支援に努めている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	意思の疎通が可能な方は、その方向士接して支障の無いようにしたり、関わり合いが苦手な方は、スタッフが状況を見ながら接し、関係でストレスがたまらない様な支援に努めている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去等で契約が終了した後も、ご家族等に行事等の案内を出して参加して頂くことで、良い縁を継続出来るように心がけている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思の疎通が可能な方には希望を尋ね、把握に努めている。困難な方は、本人の状況を踏まえた上で、家族等と話し合っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前から使用してあった家具や小物・衣類等を可能な限り使用して頂き、馴染みやすい環境を提供している。本人の趣味に合った物を飾ったりして、落ち着く場所づくりに努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日、数回のバイタルチェックや、その日の表情、身体のバランス等を観察しながら、把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時や家族会等で近況報告を行い、不安や要望、意見等を伺いながら介護計画を作成している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアマネージャー、スタッフにてその時の課題をまとめ、家族に伺いながら、随時見直しを行っている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護日誌に細かく記入し、課題があれば、その都度スタッフ、ケアマネ間で話し合いを行い改善している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	散歩・ドライブ・買い物・病院受診等、状況・要望に応じて出来る限り柔軟な支援をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	夏祭りや誕生会、花てば歌祭り、歌謡ショーなど、ボランティアの方々と協力しながら支援している。また、町の図書館を利用し本や紙芝居を借りたりしている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	主に入居前や退去後の支援についての話し合いを行ったりしている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じての権利擁護、成年後見制度等、又は入居相談等、協働して行っている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望に沿って受診出来るよう努めている。また、かかりつけ医に定期的(2週に1回)な往診をして頂き、緊急な場合等もすぐに対応して頂けるような関係を築いている。また、歯科もかかりつけ医があり、連絡をすれば、往診に来てもらえ、適切な治療が受けられる。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	本人の状態に応じて専門医を受診し、定期的に治療や相談を受けられるよう支援している。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけ医の看護師、または薬剤師に相談できる体制を築いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時も面会に行き安心されるように努めたり、病院関係者との情報交換を行い、早期に退院できるような取り組みを行っている。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>担当医、家族と話し合いを行い、家族の希望に沿えるよう努めている。</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>家族の希望を尋ねた上で、かかりつけ医と相談し、本人にとって最良の終末期が送れるように努力・支援している。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>家族より話を聞いた上で、移住に関係される方々と十分な話し合いを行い、本人に最も良い方法をとれるよう努めている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人ひとりを尊重し、プライバシーを損ねるような対応をとらないように努めている。また、個人情報に記載されているものは、絶対に外部に持ち出さないようにしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の出来ること、出来ないこと、分かる事、分からない事を十分に把握し、安心して暮らして頂けるよう支援している。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人によって、どのようなリズムでの生活が心地良いのかを十分に把握した上で、希望を聞きながら支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理解のある方には、どの服が良いかを更衣の際には尋ね、その人らしいおしゃれをして頂いている。理・美容は、家族等にアンケートをとった上で、本人の望むなじみの店に行き、頂いたり、ホームにてスタッフが散髪をしたりして対応している。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方が可能な限り、野菜を切ったり皮をむいたり等のごしらせをして頂いたり、食器洗い・片づけをして頂いたりして出来る喜びの維持を支援している。調理中の音や匂い等で食欲をそそったり、話題につなげたりしている。また、天気の良い日には、屋外で食事をしたり、手作りの弁当を持ってドライブに出かけて変化をつけている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒・タバコ等を好まれる方は現在いらっしゃらないので支援していないが、その方の好きな食べ物・飲み物を尋ね、摂取して頂けるように努めている。また、希望を聞いて手作りのおやつを出来る限り取り入れている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンを把握し、声かけにてトイレの誘導を行っている。また、残存能力を損なわない誘導に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯等は、本人に尋ねたり、タイミングを測った上で入浴して頂いている。入浴剤を使用し色や香りを楽しんで頂いたり、一人ひとりお湯を入れ替えて清潔を保ち、感染予防等にも努めている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その方の体調をみながら、日中には外気浴や散歩、軽い運動を促し、程よい疲れと安心して眠れるような支援を心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の好まれる歌、趣味、レクリエーション等を行い、楽しんで頂く。出来る方には、洗濯物・掃除・調理の手伝い等をして頂くことによって、自分の能力に喜びを感じて頂いたり、散歩やドライブ、買い物等で気分転換をして頂くよう努めている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を扱える方は、外出時等に所持して頂き、買い物等して頂くよう支援している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブ・買い物等、本人の希望やスタッフの促しにて、いつでも外出できるようにしている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	花見や季節ごとに楽しめる所を考え外出している。町内のイベントや選挙等にも、いける方は積極的に参加出来るように促している。また、お盆や正月には家族と外出・外泊をしたり、病院受診をして家族との交流が出来るよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る方は、本人が直接会話出来るよう、スタッフにて電話を取り次いでいる。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	時間制限等はしていない為、いつでも気軽に訪問して頂く環境を作っている。一緒に食事をしたり、お茶を飲みながら談話をして頂き、楽しいひと時を過ごして頂けるように心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全員が全てを認識してはいないが拘束を行うことは無く、身体拘束委員会にて報告や検討をし、身体拘束ゼロを実践している。		全てのスタッフが、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を理解できるよう、勉強会を開き、認識に努めたい。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、自由に出入り出来るように鍵を掛けないよう努めている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人のプライバシー、羞恥心を考慮した上で、見守りまたは介助をしながら安全に配慮している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	状況に応じて、直接危険を及ぼすような物は、眼につかない・手の届かない所に置いたりして危険防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒等が無いようマニュアルや事故報告書を作成する事で、スタッフ一人ひとりが気を引き締めて事故防止に努めている。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成し、スタッフルームにも目立つように張り出して急変時にはすぐに対応できるようにしている。AEDを設置しているので、使い方の講習・訓練を行っている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自主訓練と消防署に依頼しての避難訓練を年2回実施している。また、ホーム長は地元の消防団に所属しており、地域の人々の協力をして頂けるよう働きかけている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	各個人の身体に合った暮らしを大切に、リスクについては、その都度家族等に説明し、対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックにて、体調変化の早期発見に努め、状況に応じ主治医に連絡し、相談及び指示を受け対応している。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容の確認がすぐ出来るようにファイルしており、薬効や副作用の注意事項を理解出来るようにし、薬局からも指導して頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	軽い体操を行ったり、道具を使っての遊びをして、少しでも身体を動かして頂けるよう努めている。また、水分補給にて牛乳やヤクルト等を飲んで頂き、便が出易くなるようにしている。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自分で出来る方は自分で頂き、出来ない部分のみをスタッフが介助している。義歯を使用されている方は、毎週1回(日曜日)に義歯洗浄剤を使用し、清潔に努めている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのとれた食事と水分摂取を心がけている。食事は、旬の食材を多く取り入れ、彩りにも気を配っている。また、個々の水分摂取量を介護日誌に記入するようにしている。		バランスは考えているが、カロリー計算はしていない。役場の担当に依頼して、現在ほどの位のカロリーなのかを見て頂いた上で、摂取量や栄養バランスに反映させたい。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成して、衛生管理に努めている。インフルエンザについては、家族の承諾を得た上で、予防接種をおこなっている。手洗いを徹底して行っている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理用具の衛生管理に努め、手洗い・消毒を十分にしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前にはベンチを置き、誰でもが、ゆっくり腰を下ろしてくつろげるようにしている。また、周辺には花を植えて、和んで頂くよう工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じる花や壁飾りにて居心地良い雰囲気を作るよう心がけている。不快な音や目障りな光が無いように配慮している。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人ひとりが快適に過ごせる居場所と全体のバランスを両立できるようにテーブルやソファを工夫している。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具・寝具を使用したり、好みの飾り物を飾って落ち着ける空間作りに努めている。また、いつも清潔な居室を心がけている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	共用空間、居室共に換気や室温調整をこまめに行っている。また、不快な臭いが出ないように消臭剤や、掃除の時はEM液を使用し殺菌・悪臭予防に努めている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング・通路・浴室・トイレに手すりを設置して、手すりを活用して頂いている。また、障害物になるような物を通路等に置かないように心がけている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の残存能力を把握し、出来る喜びを支援したり、混乱や失敗があっても、すぐにスタッフがフォロー出来るよう努めている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周辺には桜・ツツジ・シャクナゲ・もみじ等の四季を感じる事の出来る花や木を植えており、設置しているベンチから眺めながら、談話や音楽を楽しんで頂けるよう努めている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)